

会議等報告書

甲斐市地域公共交通会議 事務局(甲斐市経営戦略課)

会議等名	第10回甲斐市地域公共交通会議		
開催日	令和6年10月31日(木)13時から	場所	本館3階 大会議室
出席者	甲斐市地域公共交通会議(瀬戸委員、池田委員(代理出席:岡)、篠原委員、中村委員、田中委員、進藤委員、鈴木委員(代理出席:服部)、野田委員、北田委員、沼尾委員、箭本委員、田中委員、宇野委員、矢野委員(代理出席:小宮山)、丸山委員 事務局:酒井事務局長(経営戦略課長)、村越(経営企画係長)、三井 株式会社日建設計総合研究所:加治工氏、今枝研究員(WEB)、藤原研究員(WEB)		

1. 開会(司会:酒井事務局長)

2. 会長あいさつ(瀬戸会長)

- ・今年度4回目、全体で10回目の会議となるが、本日はAIオンデマンド交通「かいのり」の進捗状況と地域公共交通計画策定に係るアンケート結果の報告、その内容について協議していただくものである。
- ・皆様の知見に基づき忌憚のない意見をお願いします。

3. 案件(議長:瀬戸会長)

(1) AIオンデマンド交通実証運行事業の進捗状況について(説明:村越係長)

ガイドブックについては、広報11月号と一緒に既に全世帯へ配布している。1ページは「かいのり」についての説明、2ページは、「利用方法」について、3ページは、「モビリティハブ」の説明となっている。4ページは、「かいのり」運行エリア全体のマップとなる。

エリアは、竜王・敷島・双葉の3エリアとし、竜王エリアの停留所はブルー、敷島はピンク、双葉はオレンジ色で表記している。ページ左下マップ上の停留所表記について、Aは自治会内停留所で自治会の公民館やごみステーションに178箇所を設置、Bは甲斐市民バス停留所で119箇所、Cは事業所停留所として68箇所設置している。なお、事業所停留所はマップ印刷の原稿入れ期限までにスポンサー申込のあった事業所を掲載しているが、それ以降の申込については、随時、停留所は追加している。

5ページ以降は、停留所が設置されている詳細の運行エリアマップとなっている。21、22ページはスポンサー広告で、マップ同様に原稿の期限までに申込のあった55事業所の掲載となる。

次にモビリティハブのチラシについて、これまでの説明との変更点は敷島エリアでは敷島図書館周辺としていたが、山梨交通敷島営業所様のご協力によりバス「レトボン」を待合所とした。

チラシ裏面は実証期間中に実施するイベントの案内で、竜王駅ではモビリティハブに賑わいを創出する仕組みとして地域事業者等の出店販売を行う。

【質疑応答、意見】

- 委員：ガイドブックは全会員に配布するのか。それ以外に配布、閲覧場所があるか。
- 事務局：市民全世帯に広報と一緒に配布している。それ以外には、スポンサー事業者、各公民館、庁舎、経営戦略課の窓口に設置している。なお、市外の会員については会員証と一緒に郵送している。
- 委員：現時点での会員数は。
- 事務局：先週末時点で160名。
- 会長：この数が多いか少ないかは事業後の検証となるが、少なくとも前回実証以上の登録数があるとよい。
- 事務局：広報8月号から11月号までシリーズとして連続して広報している。また、今週に入り電話等での問い合わせも増えているところである。
- 委員：登録受付を開始した時期はいつからか。
- 事務局：10月1日から開始した。
- 会長：免許返納者や車を持たない方など公共交通が必要な方に対してプッシュ型で広報するのが重要かと思うので対応をお願いしたい。
- 事務局：社会福祉協議会が開催する「支えあい活動」でも「かいのり」の案内を実施している。また、自治会連合会議の中でも説明をさせていただいている。

(2) 甲斐市地域公共交通計画策定の進捗状況について(説明：村越係長)

市民アンケート調査について、調査概要は表1-1のとおりで市内在住の15歳以上の男女を対象に17,500配布し、回収数は1,490通、回収率8.5%であった。

公共交通利用者アンケート調査について、概要は表2-1のとおりで市民バス利用者を対象に250配布し、回収数は29、回収率11.6%であった。なお、結果の詳細は、日建設計総合研究所より説明いただく。

今後のスケジュールについて、本日10月31日に第10回甲斐市地域公共交通会議、11月20日に地域公共交通ワークショップの開催、12月下旬の第11回会議にて計画素案を審議いただき、令和7年1月にパブリックコメントの実施、2月に第12回会議を開催し、計画策定を予定している。

地域公共交通ワークショップの詳細について、会場は竜王庁舎本館3階大会議室、市内在住・在勤・在学者を対象に20名程度募集し、公共交通を利用している人や、将来の移動に不安がある人、高齢で免許返納を検討している人などに参加いただき、4～5の班編成をして、テーマについて意見交換、発表等を行う。

広報11月号で周知しており、現在申込受け中である。

◎調査結果の内容について(説明：日建設計総合研究所 藤原)

市民アンケートの回答者属性は、親と子世帯が半数以上の55.7%、次いで夫婦のみの世帯が24.2%であった。性別は女性が64.5%、年齢は50代が22.7%、40代が19.5%であった。甲斐市の人口構成と比較すると、30代から50代の回答が多くみられた。

公共交通の利用実態は、自身で運転する又は家族等が運転する自家用車による移動が多く、

電車が 3.1%、民間路線バスが 1.5%、甲斐市民バスが 0.8%であった。

直近 1 カ月の移動目的は、通勤通学が 55.1%で半数以上、日常的な買い物が 31.8%であった。移動の多かった時間帯は通勤通学の時間帯の 8 時台、次いで 7 時台が 20.7%であった。

普段の移動における公共交通の利用有無は、普段利用しない方が 78.9%で多くなっており、自家用車での移動が多いことがわかる。

公共交通の利用満足度について、電車(JR)の満足度は普通が最も多く 34.6%、やや不満が 15.6%であった。山梨交通路線バスは、普通が 19.3%、やや不満が 15.8%であった。甲斐市民バスについては、普通が 13.8%、やや不満が 10.5%で、公共交通全体の満足度はこの調査からは普通又はやや不満が多い結果となった。

市民バスの今後の意向は、必要と答えた人が 80.7%。今後の運行内容の方向性について、現行の本数ルート維持が 43.3%、市民負担が増えても本数等を充実させるが 39.0%であった。特に改善が必要な事項は、自宅近くへの停留所設置が 23.3%で最も多かった。

公共交通全体の充実度は、あまり充実していないと思うが 30.2%で多く、ある程度充実していると思うは 27.4%であった。

自家用車の運転継続希望は、続けたいが 50.6%、将来的にはやめたいが 29.9%であった。

「かいのり」の認知度は、認知していない人が 66.4%で多くなった。認知媒体は広報誌が最も多く市ウェブサイトが続いている。利用の有無は、「いいえ」が 89.5%で多く、利用しない理由は必要となる移動がなかったが 66.6%で使い方が分からなかったが 14.5%であった。

より利用しやすくなる工夫として、回数券が最も多く、他の交通機関との乗継割引が次いで多かった。本格運行への意向については「かいのり」利用者だけに絞って集計したが、本格運行を希望するが 91.5%であった。

モビリティハブの認知度等については、認知の有無は「知らない」91.7%で最も多く、認知の媒体としては広報誌が最も多かった。利用有無は「利用したことがない」が 88.9%、利用しない理由は、竜王駅に行く機会がないが最も多かった。また、屋外空間で寒いという意見も見られた。より利用しやすくなるために必要なこととして、商業機能売店の整備が 50.5%で最も多く、休憩待合機能の充実が 39.4%、情報発信機能が 30.3%であった。本格設置への意向は、利用した 9 名のみに絞った結果になるが、常設を望む声が 88.9%であった。

次に公共交通利用者アンケート調査について、回答者の世帯構成は一人暮らしが 34.6%、次いで親と子の世帯が 31.0%であった。性別は女性が 75.9%で年齢は 70 代が 44.8%で最も多くなった。

甲斐市民バスの利用実態として、普段利用している路線は、山梨大学医学部附属病院線が 33.3%で最も多く、敷島双葉線が次いで多かった。市民バスでの移動目的は日常的な買い物が 73.3%で最も多く、次いで通勤通学が 13.3%であった。直近 1 カ月の利用頻度は週に 3~4 日、1~2 日が 40.0%で多く、次いで 5 日以上が 13.3%であった。

移動の主な曜日は火曜日が最も多く月曜日水曜日が続き、週初めの利用が多い。時間は 9 時台 10 時台が最も多い。

満足度については、満足が 27.6%で最も多かった。今後の必要性は、95.1%が必要と回答している。今後の運行内容は、現行維持が 50.0%、負担増でも充実させるが 41.7%であった。

改善が必要な事項は、市民アンケートでは自宅地区へのバス停の設置が最も多かったが、こちらのアンケートでは負担から甲斐市民バスを利用していることから増便を望む声が最も多かった。

「かいのり」に関する調査事項は市民アンケート結果と同じ傾向がみられるが、甲斐市民バス利用者の内「かいのり」を利用したことのある方は本格運行を望む声が多いのが特徴であった。

【質疑応答、意見】

委員：利用者アンケートについて、配布 250 通に対して 29 名の回答があったが、15 ページの問いの合計が 15 名となっていて、残り 14 名はどのような回答だったのか。また、市民アンケートの 9 ページの最下部、「かいのり」がより利用しやすくなるために必要だと思うことの回答はお得な回数券が最も多いが、昨年までの実証は無償だったのに違和感を覚える。

事務局：様々なアンケートを行う中で、答えにくいものは答えない傾向がみられる。例えば、路線名を答える問いに対して路線名が分からないから答えないが、以降の設問から回答を再開したりすることもあるので参考にしていきたい。

日建設計：今回の調査は昨年までの実証が無料であった等の情報は明記せず「かいのり」がより利用しやすくなるために必要なことを聞いているので、「かいのり」が今後有償となることを見越して回答した人が一定数いたと考えている。

4. その他（司会：酒井事務局長）

事務局：この後 14 時 30 分から JR 竜王駅南北自由通路にて AI オンデマンド交通及びモビリティハブのお披露目式を行うので参加をお願いします。また、次期会議は計画素案についての協議となるので、事前に資料を送付させていただく。また、会議日時も決まり次第通知させていただく。

5. 閉会（司会：酒井事務局長）

13 時 45 分頃 終了